

| 1 スクール・ミッション | | |
|--|--|---|
| 「教養、調和、挑戦」を目標とし、自主自律、文武両道の精神の下、6年間一貫通貫した探究活動を中心とした教育活動を通じて理数的課題発見力・解決力を育成するとともに、新しい価値観と既存の価値観を調和させ、社会の課題を解決するために自己の限界に挑戦できる人間を育成します。 | | |
| 2 教育目標 | 3 スクール・ポリシー | |
| 「知性を高め、教養を深める」 「品性を養い、感性を磨く」 「自ら判断し挑戦する精神を高める」 | (1)グラデュエーション・ポリシー 富士山の裾野のような幅広い教養と高度な理数的発見力と理数的解決力を身に付けさせることで課題発見力と課題解決力を育成し、これらの力を活用して、新しい価値観と既存の価値観を調和させ、社会の課題を解決するために自己の限界(高嶺)に挑戦できる人間を育成します。 | (2)カリキュラム・ポリシー 文理を問わないリベラルアーツ教育や生徒が主体的に運営する特別活動をとおして、「教養力」「調和力」「挑戦力」を育成します。特に、スーパーサイエンスハイスクールとして、全校生徒が教科「理数探究」を履修して課題研究「富士未来学」に挑戦する中高一貫理数教育カリキュラムを中心とした探究的な学びを、全教員・全教科体制で実践し、「挑戦力」「理数的発見力」「理数的解決力」の3つの力を育成します。 |
| | (3)アドミッション・ポリシー 本校は、「自己調整を行いながら、粘り強く試行錯誤しながら挑戦しようとする意志をもった生徒」、「挑戦力を働かせて、知的好奇心に基づいて調査しながら課題を発見しようとする生徒」、「挑戦力を働かせて、科学的な根拠を裏付けにして課題を解決しようとする生徒」、「学校行事などの特別活動や部活動に熱心に取り組み、豊かな人格の形成を目指す生徒」を求めています。 | |

4 中期目標と方策

| | | |
|--|---|--|
| 情報技術の革新的な進歩が社会の在り方に変革をもたらし、それに対応するため学習指導要領の改訂や高大接続改革等により学びの質的転換が図られようとしている。また、成人年齢の引き下げにより、生徒は成人としての社会的自立が求められる。次代を担う社会的に自立した人間の育成、生徒一人一人の能力を最大限伸ばす学校づくりの推進、質の高い教育を支えるための環境整備という「都立高の魅力向上に向けた実行プログラム(案)」の目標に基づき令和5年度の目標等を示す。 | (1)目標 ア「SSH校」として課題研究と他の全ての教科の関連をもたせたカリキュラムや、高度な理数教育を推進する。 イ 中高一貫教育校の教育課程上の特例を生かした、6年間一貫通貫したカリキュラムを実施する。 ウ 生徒一人一人の能力を最大限に伸ばさせるため、知・徳・体のバランスの取れた教育活動を展開する。 | (2)方策 ○「SSH校」として、全ての教科で探究活動を教育内容に取り入れた課題研究と横断的なカリキュラムを推進し、中高一貫教育校の特例を生かした質の高い教育内容や高大連携事業による高度な理数教育カリキュラムの維持及び推進 ○「Global Education Network 20」としての指定校の教育活動を発展させた特色ある教育活動の策定 ○6年間一貫通貫した教育課程のカリキュラムマネジメント ○道徳教育を中核とした心を育てる教育の充実 ○「Sport-Science Promotion Club」指定校、「体育健康教育推進校」としての特別活動を発展させた心と身体を鍛える教育活動の充実 |
|--|---|--|

| 領域 | 5 今年度の取組目標と方策 (1)教育活動の目標と方策 | | (2)重点目標と方策 | |
|------------|-----------------------------|---|---|---|
| ア 学習指導 | 目標 | 「SSH校」「Global Education Network 20」を発展させた富士教育のグランドデザインに基づく質の高い授業への変革 | 6年間、一貫通貫した教育課程及びSSH事業指定3年目の教育内容の検討 グローバル人材育成の一層の推進 | 【数値目標等】 ○自学自習に関する肯定的割合 80%以上 ○教員の富士未来学へ協力 100% ○授業におけるICT活用量 100% |
| | 方策 | ○主体的、対話的で深い学びの実践 ○自学自習の学習習慣の確立 ○習熟度別、少人数授業の効果的な取組及び、補習、補講の充実 ○リベラルアーツ教育の趣旨を生かすカリキュラムデザインの策定 ○SSH事業への取組、カリキュラムマネジメントの実施とシラバスの策定及び教科指導の研究の推進 ○スマートスクール構想の拡充 | ○SSH事業を中心とした理数カリキュラムの推進 ○6年間の教育課程編成及び指導計画策定とシラバス作成 ○学習評価の在り方についての外部講師の招請 ○学力保障のための支援体制づくり | |
| イ 生活指導 | 目標 | 成人としての社会的自立を果たせる生徒の育成 | 自主自律の精神の下、生活規律のある生徒の育成 | 【数値目標等】 ○挨拶運動の実施 年3回 ○ボランティア活動参加 1人1回 ○8時25分登校 怠惰な遅刻ゼロ |
| | 方策 | ○授業規律、生活規律の確立 ○学校訪問者に笑顔で挨拶の励行 ○思いやりの心や奉仕の精神を育成し、協働してより高きを目指す意欲の喚起 ○道徳教育の推進 ○家庭、地域、関係機関と連携した生徒の育成 ○中学3学年から高校2学年までの中高接続を生かした異学年交流を活用した教育 | ○挨拶し、声を掛け合える環境づくり ○時間を大切に作る行動選択の励行 ○安全行動(自転車運転ヘルメット着用等)の推進 ○ボランティア活動への積極的参加 ○異学年交流による人材育成 | |
| ウ 進路指導 | 目標 | 生徒の進路希望の実現 | より高き進路希望への挑戦を支援する体制づくり | 【数値目標等】 ○学力推移調査 Sランク各学年30%以上 |
| | 方策 | ○より高き進路希望への意志を貫き挑戦する生徒の育成と支援体制の構築 ○キャリアデザイン構想と国立大学、海外大学等受検支援体制の強化 ○進路、教科、学年、部活動顧問等間におけるデータ共有と能力伸長、学力向上に向けた励ます指導の励行 ○高校3年間での自己実現に向けた、データ分析による生徒一人一人に寄り添った進路指導の充実 ○模試答案分析、大学入試研究、指導内容や指導方法の改善による授業力の向上 ○自習室や進路指導室の充実と有効活用 | ○国立大学を目指す環境づくり ○根拠となるデータ分析による生徒の意欲喚起 ○将来を見据えた、高い進路目標設定への支援 | |
| エ 特別活動 | 目標 | 「Sport-Science Promotion Club」「体育健康教育推進校」としての責務を果たし、文武両道の精神を生かし健康で活気に満ちた学校行事や委員会活動、部活動への主体的な取組で自己実現の態度の養成 | 文武両道の精神で、何事にも挑戦する生徒の育成 | 【数値目標等】 ○理数に関するオリンピック等への大会の参加受賞 1人 ○運動部活動全国大会出場 2人 |
| | 方策 | ○体育祭、文化祭、合唱祭等の成功体験により、感動を与える ○生徒会活動、委員会活動の活性化 ○部活動への参加奨励と充実感により、協働、協働の重要性に気付かせる ○積極的、主体的な取組により、豊かな人間性を育む | ○生徒会活動や委員会活動のより一層の活性化 ○学校行事への積極的参加 ○部活動等と学習習慣を両立するメリハリのある生活習慣 | |
| オ づくり健康 | 目標 | 「TOKYO ACTIVE PLAN for students」に基づく心身ともに健康で、自己の挑戦を支える体力向上 「東京都特別支援教育推進計画(第二期)第二次実施計画」に基づく取組 | 心身の健康と体力増進 | 【数値目標等】 ○救命救急法の講習や交通安全教室の実施 ○いじめ防止や体罰防止研修実施 2回以上 |
| | 方策 | ○学校保健計画に基づく、保健指導の推進 ○生徒の運動習慣の確立と自己管理能力の向上 ○スクールカウンセラー等や家庭と連携した心の健康づくりと相談体制の強化 ○インクルーシブ教育の理解と通級等のケース会議等における情報共有 ○生命尊重、人権尊重の指導強化といじめ・体罰等の撲滅 | ○安全教育に関する外部機関を活用した講習等の実施 ○いじめ防止に関する生徒への指導や体罰防止研修の実施 | |
| カ 活動広報 | 目標 | 富士の特色を明確にし、富士を第一志望とする志ある生徒の拡大 | 富士の魅力発信の活性化 | 【数値目標等】 ○ホームページ更新 900回 ○説明会(2回合計) 参加者2,000人以上 ○学校見学会等 参加者2,000人以上 ○応募倍率 4.0以上 |
| | 方策 | ○ホームページの活性化 ○学校説明会等での魅力発信の検討 ○小学校や小学生とその保護者への広報活動の一層の充実 | ○ホームページを魅力あるものとし、アクセス数の増加を目指す ○小学生対象の説明会等の活性化 | |
| キ 組織体制 | 目標 | チーム富士としての教職員の経営組織体制の強化 | 分掌の横の連携強化と会議の効率化による働き方改革の実施 | 【数値目標等】 ○80時間以上残業者 0人 |
| | 方策 | ○会議の在り方と内容の充実 ○情報共有と教員の当事者意識の醸成 ○教師が一丸となった生徒支援体制の強化と人材育成 ○教育課程、予算執行、施設整備、人的適正配置を一体とした経営の適正化 ○ライフワークバランスを徹底した働き方改革の推進 | ○情報共有の方法の開発 ○会議内容や構成メンバーの見直し | |